



高野山開創
1200年



駕龍寺定紋

題字 / 弘法大師



高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042
岡山県倉敷市二日市600

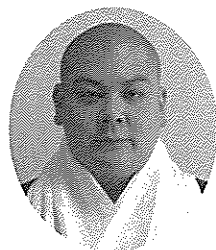
電話 086-421-5631

発行人 富山義賢

ホームページ http://www.karyuji.jp/

精霊棚を飾る

備福山正智院 駕龍寺
住職 富山 義賢



今年もお盆をお迎えする季節がまいりました。土地土地の習慣や風習はさまざまですが、どこでもご先祖さまの御魂がお帰りになることを待って準備を整え、お盆十三日の夕方、迎え火をたいて、いよいよご先祖をお迎えします。すでにお仏壇はきれいに掃除され、お供え物もあげてあります。そしていま一つ、精霊棚がお飾りされています。

精霊と書いて仏教ではシヨウリヨウと読みます。精霊棚には、お仏壇とは別に特別におロウソク、お花、お線香、お水、そしてお供え物がたくさんあげられて、いかにもご先祖をお迎えし、おもてなしするにふさわしい準備です。

ナスで牛、キュウリで馬がつくられています。ご先祖さまはこのキュウリの馬に乗って、ナスの牛にひかれて来られるとのこと。

先日、昨年お姑さんを亡くされて新盆を迎えるというAさんがおいでになりました。Aさんは、八年もの間寝たきりだったお姑さんを愚痴一ついわずお世話をされた気丈夫なご婦人です。

お姑さんがいよいよ危いということになり、親族の方が集まりました。五人の子持ちであったお姑さんでしたから、お孫さんも入ると大勢の親族です。突然のお客の接待にAさんは大忙しでした。何回もの食事の世話で疲れているAさんの耳にこんな会話が入ってきました。

「お姉さん、もつとやさしく看病してくれてたら、あと二、三年は生きられたわよ。」

この声はお姑さんの長女Cさんでした。「食べたいものも食べず、行きたいところにも行けず、お母さんかわいそう……。」これは先日嫁いだばかりの末娘のBさん。こんな声を台所で聞いたAさんの胸は、悲しみでいっぱいになりました。

お医者さんの言葉に、いよいよお別れが近いことを悟った

親族がお姑さんのそばに近寄ると、お姑さんがやせた手を差し出しました。その手をだれもが握ろうとすると、お姑さんは、違う、違う、といわんばかりに手を握らないのです。最後に残ったのは長年お世話をしたAさんだけになりました。そつとAさんがお姑さんの手に触れた一瞬、強い力がAさんの手を握り締めました。けれど、それはほんの一瞬のことでした。すぐさまお姑さんの手から力が抜け、それっきりでした。

あれから一年、Aさんの手の平にはいままも暖かく強い、お姑さんの手の力が残っています。Aさんに申し上げました。「Aさん、お姑さんは幸せな方でしたね。あなたのおかげで、ほんとうに心おきなく旅立たれたに違いありません」と。

さまざまな思いを抱いて、お盆が始まるようとしています。こんな俳句があります。

魂棚の奥なつかしや親の顔 去来

ご先祖さまもお帰りになるでしょう。またお盆休みを利用して、日ごろ遠かった家族や親類縁者の顔も見られるでしょう。亡き人と生ある人との再会をもたらすお盆の行事を大切にしたいと願わずにはおられません。 合掌

暑中お見舞い申し上げます

高野山真言宗 駕龍寺

住職 富山 義賢

- | | | | |
|------|-------|----|--------|
| 責任役員 | 藤木 萬平 | 総代 | 那須 昭文 |
| 〃 | 陶浪 保夫 | 〃 | 小原 惣一郎 |
| 〃 | 大熊 公夫 | 〃 | 藤原 金一 |
| 総代 | 岡本 通 | 〃 | 藤原 公男 |
| 〃 | 高木 久志 | 〃 | 中村 晃大 |
| 〃 | 藤井 繁夫 | 〃 | 藤木 達夫 |
| 〃 | 眞鍋 兄一 | | |

平成二十五年六月 就任

題号：「福寿海（ふくじゅかい）」

駕龍寺の御本尊、恵信僧都源信上人御作と伝えられる聖観世音菩薩は、その功德大海の如く広大にして、「福を見て与えずということなく、寿を願って延べずということなし」の大慈悲の故、古来より「福寿海観音」と称せられ多くの善男善女に尊崇されております。駕龍寺報「福寿海」は、その御本尊の称号を採って題号としたものであります。

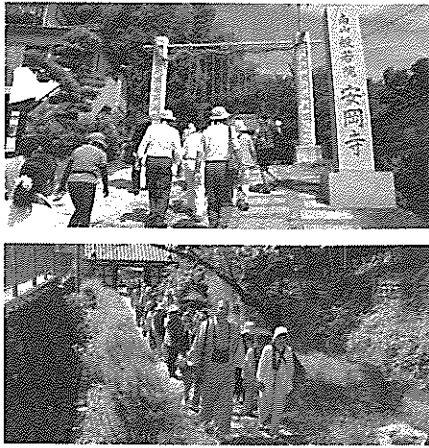
団参報告

近畿三十六不動尊 霊場を巡拝中

駕龍寺では「心の旅バスツアー」として全国の霊場や名刹古刹を巡る小旅行を年に二回実施しています。今年の四月からは、近畿三十六不動尊霊場をお参りしています。

毎回六ヶ寺を日帰り巡り、四月に一回目を七月に二回目を実施し、現在までに十六ヶ寺を済ませました。三十名程の方が霊場巡拝を通じて自利利他の菩薩行の実践と相互の親睦を図っています。

途中からの参加や、一回のみのご参加も大歓迎ですので、詳細は駕龍寺までお問い合わせください。
次回(第三回)は来春を予定しています。



投書

駕龍寺へお参り始めて

新しい本堂が岩崎に建立されて三十五年位かな、長男の受験の年、元気で試験日が迎えられるようにとの思いで除夜の鐘を打たせてもらい、二人の時、三人四人の時、今では一人でお参りし、よく一年も休むことなくお参りが続けられたものだと思いきや、今だから思えること、健康のありがたさに感謝しています。

今年の節分祭には歳女として豆まきを体験させてもらい感動しました。年末には甘酒の接待を手伝っています。今年より近畿三十六不動尊のお参りに参加しています。

一年のお礼と新しい年の健康をお祈りして、除夜の鐘をあと何回打つことが出来るだろうかと思う今日のごころです。

平成二十五年六月吉日

匿名

弘法大師正御影供 春季彼岸会

三月十七日午前十時より、住職導師のもと観音講にあわせて春季彼岸会ならびに弘法大師正御影供が駕龍寺本堂で厳修されました。当日は、多くの檀信徒ならびに永代供養・納骨の施主が多数参詣し焼香、各家先祖代々や身近な仏様の増進菩提を祈念しました。

また、同月十一日には東日本大震災発災より二年が経過したこと、東日本大震災物故者三回忌を併せて奉修しました。本堂内陣に物故者の位牌を奉安し、住職が回向文を奉読し、参列者一同が焼香、物故者の冥福と被災地の早期復興を至心に祈りました。

ご案内 平成二十五年秋の本山参り

高野山 結縁灌頂入壇と 奥之院満燈会参拝の旅(一泊二日)

毎年恒例となつている、駕龍寺の本山である高野山へのお参りを左記の要領で実施いたします。今回はいつもの参拝に加え、皆様には「結縁灌頂(金剛界)」に入壇していただきます。

この儀式は仏様の世界を表す曼荼羅(まんだら)に向かつて華を投ずることにより、仏様(密教の尊い教え)と縁を結ばせて(これが《結縁》の意味)いただき、阿闍梨様から大日如来の智慧の水を頭の頂より注いで(これが《灌頂》のこと)いただくことにより、皆さんの心の中に本来そなわつていらつしやる仏の心と智慧を導き開く儀式です。高野山では「大曼荼羅供」とともに一年に二回しかない厳格な儀式の一つです。

僧俗を問わずなたでも金剛胎藏(こんごうたいざう)の諸仏と縁を結ぶことができます。受者は印と真言を面授され、そして両目を覆われます。印の先には花を授けられ曼荼羅へと導かれます。そして花を曼荼羅に投ずることによって曼荼羅の諸仏と「仏縁」を結びます。これを「投花得仏」といいます。次に如来の智慧の水を阿闍梨様より注いでいただきます。そうすることによって煩惱の闇をさまよつている我々に道しるべを与えていただきます。

持ち物は特に必要ありませんが、念珠・お袈裟をお持ちの方はご持参ください。この尊い機縁に触れていただきまして、心豊かな生活を送られますことをお祈りいたします。

※通常の大師教会の「お受戒」とは異なります。

日時：平成二十五年十月二日から一泊二日
 参代金：三七、〇〇〇円(結縁灌頂入壇料込)
 申し込み締め切り：九月二十日(金)

お願い

「参与会にお入りください」 お大師さま高野山開創 千二百年を迎えるにあたって

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っておられます。その願いはすべての宗派や身分職業果ては国境をも越えて生き続けています。ここに、弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に弘法大師高野山開創千二百年大法会を成功に導くため、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といひ、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げようごころの輪
現代の高野山としてお大師さまのみ教えを広げていくために活動を行っています。会員になれますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

●研修会 参与会では、年一回研修会を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、勤行、下座行掃除、御詠歌などです。開催については、毎月二回送られる「高野山教報」のご案内になります。会員の皆さまからは、大変好評を得ている研修会です。●物故者慰霊碑は、篤いご浄財により建立され、平成十四年十一月十日奥

備福山小史 平成二十五年 上半期

除夜会・修正会
新年の安寧と世界平和を祈念

旧臘三十一日夜半から元日にかけて駕籠寺本堂において、過ぎゆく年を振り返り反省をする除夜会と無事に新年を迎えられたことを感謝し、世界平和と国家安寧、無病息災を祈る修正会が奉修されました。

大晦日の厳しい寒気の中、多くの檀信徒・近隣の人々が参詣し、一年間の感謝と新年の心願成就を祈りました。堂内では本尊「福寿海観音」が御開帳され、住職導師のもと法会が厳修され、荘重な声明の音が響くなか除夜の鐘を鳴き終えた参詣者が焼香してそれぞれに祈りを捧げました。また、当日から正月三が日に参拝された方に干支を切り抜いた宝来と備前焼の干支飾りが授与されました。

節分会を厳修
福豆・身代り守りを授与

節分祈禱会が立春前日の二月三日午後三時から本堂で住職導師のもと行われました。当日は本堂内陣に星供曼荼羅を奉祠し各人の運命に影響を与える北斗七星・十二宮・九曜二十八宿の星をまつことで、除災招福・福寿増長を祈念いたしました。

法会終了後には、年男・年女による豆撒きが行われ、恵方巻きが接待されました。この日は快晴に恵まれ、参詣の方も立春を前に春の訪れを間近に感じながら、一年の節目に無病息災をお祈りしていただきました。

平成二十五年度
世話人総会を開催

五月十九日午後四時三十分、各地区の世話役と役員、総代が駕籠寺客殿に参集。那須昭文総代を司会に、般若心経一卷をもって御法楽を捧げた後、管長親下の御親諭奉読の後、富山義賢住職の垂示があり、続いて藤木萬平役員が挨拶しました。その後、司会が総会の開会を宣言して議事に移り、平成二十四年度事業報告を藤原金一総代が、会計報告(別掲)を藤井繁夫総代が上程、説明しました。続いて岡本通監事が決算書について、それぞれ適正に処理されている旨の監査報告を行い、以上各案につき一括審議、異議なく承認されました。引き続き住職より高野山御開創千二百年記念大法会についての説明と参与会入会の依頼があり、質疑応答が行われ、以上ですべての議事を終了。午後五時、御寶号七返をもって御法楽を捧げた後、五時十五分に閉会しました。

高野山御開創千二百年を前に
お大師さまの御労苦に報いる

駕籠寺の高野山御開創千二百年記念大法会記念事業の一環として駕籠寺境内に「高野山御開創千二百年記念五輪卒塔婆」が完成し、五月十九日午後四時から世話人総会に先立ち、役員・総代・世話人が参列し開眼法会を営みました。富山義賢住職の導師のもと、開眼作法の後読経が響く中、参列者が焼香し静かに手を合わせました。

この五輪卒塔婆は高野山で御入定・御開創・御誕生などのお大師さまにかかわる大法会が行われる度に建立されてきたものであり、総代会の発願により、稲田石材加工店の施工により、建立されたものです。左右の側面には向って右には「卜居於高野樹下 遊神於都卒雲上」、左は「不闕日日之影向 検知處々之遺跡」と彫られています。

これは「日々影向文」と呼ばれるもので、全文は「※卜居於高野樹下 遊神於都卒雲上 不闕日々之影向 検知處々之遺跡」となります。

なお、この文は高野山大門の正面の太い柱に、この柱脚が二枚掲げられています。その意味は、弘法大師は高野山を入定の地と定め、弥勒の浄土である都卒天の雲の上におりつつ、弘法大師のいわれのある旧跡や遺跡に日々影向する、といったふうな解釈することが出来るかと思えます。「弘法井戸」などといった弘法大師にまつわる伝説はたくさんありますが、こうした伝説の場所にも弘法大師は現れ、今も人々を救っておられるという、いわゆる弘法大師入定信仰を意味するものと考えられます。

※「居を高野の樹下に卜し、神を都卒の雲上に遊ばしめ 日々影向を欠かさず、処々の遺跡を検知す」

三十六不動

駕籠寺では、「心の旅バスツアー」として、現在「近畿三十六不動尊霊場」を数回に分けてお参りしています。現在までに二回目を実施し、約半分の十六ヶ寺を巡拝しました。「不動尊信仰」については、永い歴史があり、全国各地にその霊場が広がり、私

の院において慰霊碑開眼法会が執り行われました。参与会員は、極義参与物故者慰霊碑におまつりし永く供養を捧げます。●会員になると、高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジを授与致します。また、参与袈裟をつけて高野山にご登山くだされば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、金剛峯寺に参拝されると、記念品としてお線香を贈呈いたします。月一回発行の「高野山教報」をお届けし、高野山真言宗が発行するパンフレットなど印刷物をその都度お届けします。●年会費 一万円 この年会費は、お大師さまのみ教えを一人でも多くの人に知っていただくための広報活動に役立てられています。お問い合わせ、パンフレットご希望の方は駕籠寺まで

共の生活の中にとけ込んだ普遍的な信仰となつて榮え、信者方個々の信仰対象でもありました。住古より不動護摩には息災・増益・調伏・敬愛と、その御利益については時代に応じて、数多くの願望を達する祈願の成就がされ、その霊場は地方における民俗信仰の中心となつています。もとより、この霊場以外にも由緒有る不動尊信仰の盛んな道場は沢山ありますが、近畿三十六不動霊場は、門跡寺院、総大本山を始めとし、不動霊場として、由緒ある伝灯を護持されている霊場です。現在、駕籠寺の檀信徒であるなしにかかわらず、三十一名の同行衆と楽しくお詣りしています。途中からの参加や、一回だけのお参りも大歓迎ですので、ご案内を差し上げました時にはお誘いあわせの上、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

収入		支出	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	5,045,578	《維持費》	
受取利息	1,181	建造物修繕費	658,440
地代入金	13,200	(藤棚・芝・水道修理)	
維持管理費		環境整備費(草刈・剪定・浄化槽)	504,161
(内訳)		駕龍寺旧跡地記念碑・除幕式	628,736
集金分 5,000×528戸	2,640,000	警備費(総合警備保障)	352,800
振込分 5,000×158戸	790,000	保険料(建物火災)	158,930
3,000×1戸	3,000	租税公課(固定資産税)	4,400
1,000×1戸	1,000	小計	2,307,467
平成23年度分 5,000×2戸	10,000	《運営費》	
合計	8,503,959	消耗品費(リコーリース費)	94,605
		世話人会総会費	220,366
		奉仕者への弁当代他	77,735
		小計	392,706
		支出合計	2,700,173
		次年度への繰越金	5,803,786
合計	8,503,959	合計	8,503,959

車裡建築など環境整備基金合計額 16,661,939円

(単位：円)

この決算書を監査した結果、金銭出納簿の記載並びに証憑類の関係書類は厳正に管理保管整理され、決算書と相違ないことを報告します。

監査実施日 平成25年4月13日 駕龍寺監事 岡本 通 在判
同 監事 岡本 拓 在判

當山盆行事御案内

三界萬靈供養

●八月十七日(土) 午前十時

於 駕龍寺本堂

檀信徒総供養・盂蘭盆大施餓鬼会

施餓鬼供養・塔婆供養・法話

暑い中、恐縮に存じますが先づ暑いの年に一度のお盆です。お繰り合わせご家族おそろいで、またお一人でも是非お参り頂き御焼香頂きますようご案内申し上げます。

※当日は大変混み合います。普段着で涼しい服装でお参りください。

※お参りの節は、棚経の時に僧侶がお持ちした経木塔婆に施主のお名前を記入してご持参ください。

※当日、個々の戒名・俗名でご供養された方は、事前にお寺までお申し出頂るか、当日受付にてお申込みください(供養料、一霊につき五百円以上)



下半期行事予定

●九月十七日 午前十時

観音講・秋季彼岸会

※永代供養並びに納骨されている方は是非お参りください。

●十一月十七日 酒樽観音大祭

●十月二〜三日 秋の団参(高野山)

●十二月三十一日

午後十一時四十五分頃より除夜会

●平成二十六年一月一日

(除夜会に引き続き) 修正会

慧燈星懸 (編集後記)

▼今年の夏は猛暑と共に雨の中棚経に回る日が何日かある▼例年棚経の時期は晴天で雨に降られることは滅多にないのだが今年は突然のどしゃ降りにあう事もしばしばである▼どれだけ科学文明が進歩して人間の英知が高まったとしてもやはり天気のことには神の領域なのだ実感させられる▼先日我が家の長男が初めて高野山にお詣りした▼翌日宿坊を出るときに偶然松長管長現下が用事で御来訪になり思いがけず嬉しい初対面となった▼高野の住人も「高野山にいてもお目にかかれないうのに」と驚いていた▼初めて相山に上がったわが子にお大師様がくださった歓迎のサブライスのような気がして胸が熱くなった▼六月に総代役員の新しい任期が始まった▼再任新任の各位には菩提寺の発展に粉骨砕身して励まれることを期待する▼涼しい風が吹くのはまだまだ先▼皆様には体調管理にはくれぐれもご留意ください。

投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします
お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験や日常生活で感じたことなどをお寄せください。また「お答えします」のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんな質問をお待ちしています。

宛先

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒771-0104 岡山県倉敷市二日市六〇〇

高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@kanyu.jp まで

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。